

# ピアノを弾こう!

## 教室訪問 PART 2 第4回

子どものレッスン、大人のレッスン、さて今回は?

# 個人レッスンで、イメージする音を表現する楽しさを教える

今回訪問したのは、東京・大田区のヤマハ特約楽器店「スター楽器」のピアノ教室だ。小・中学生を中心に教える渡辺宣子先生は、笑顔を決やせずにコミュニケーションをとりながら、生徒たちの自立心を育てることを大事にしていた。



今月のピアノ教室 東京・大田区  
スター楽器池上センター



ヤマハ特約楽器店「スター楽器池上センター」では、2階と3階に11室のレッスン室を完備。近隣から通ってくる生徒が多いことも特徴で、個人レッスンのほかに幼児科コース(グループレッスン)や「ヤマハ大人の音楽レッスン」なども実施。年1回、楽器店主催のコンクールも開催している。■東京都大田区池上3丁目41-12 ☎03-3755-1804 / 東池上線「池上駅」より徒歩2分



ピアノは絶対、続けるよ!

### 今月の先生と生徒

#### 渡辺宣子先生

わたなべ・ぶこ ●システム講師(ヤマハ)を経て、スター楽器の専属講師となり、現在週3日教える。生徒数は小・中学生を中心に約25人。「自分でも不思議なほど、志穂ちゃんくらいの年代の子が多いですね。ヤマハ音楽振興会東日本エリアのPSTA講座スタッフ。

こはらしほ

#### 小原志穂ちゃん(小3)

3~4歳から幼児教室に通い、渡辺先生の個人レッスンを受ける前は、グループレッスンに通っていた。家での練習時間は「バラバラ。お母さんに言われて練習することもあるし...」。英語とスイミングを習っている。

### 渡辺先生のレッスン流儀 笑いのあるレッスンから子どもの自立心を引き出す

人前で演奏するのが大好き。「上手に弾けると、「ヤッター!」って感じる。習い事や勉強もあって忙しいけれど、「ピアノは絶対、やめない。続けるよ!」と、志穂ちゃん。

### さあ、レッスンしましょっ!



使用テキストは、「NEWピアノスタディ6」。ケーラー作曲の「ボヘミアの歌」の連弾から始まり、グルリットの「春のおとずれ」、モーツァルトの「メヌエット」などをレッスン。

### 子どもなりに達成感を得られるような教え方

小3の小原志穂ちゃんが、渡辺宣子先生の個人レッスンを受けるようになって、約1年。1年間のグループレッスンを経て、「もっとピアノが上手になりたい!」という、本人の意志から始まった。

ピアノ教室で教える時、志穂ちゃんくらいの10歳前後の年齢は、とても微妙な時期らしい。学校の勉強や塾通いに時間が取られるなか、ピアノを続けるべきか否かという最初の迷いが生まれるのだそう。当然、「親にやらされている感」が強ければ、続かない。

ピアノを弾きたい子どもの気持ちを引き出すには、「自立心を育てるレッスンが大事」と渡辺先



音楽は目で見えないものだからこそ、「心と心の交流を大切にレッスンしていきたいですね」

生。「たとえば今日のレッスンでも、『ボヘミアの歌』の左手に入るだろうと予想して、志穂ちゃんは自主的に左手練習をしてきます。練習すれば上手に弾けるようになるし、達成感も得られる。そうした流れが生徒さんなりに理解できるような言葉をかけることを心がけています」

また、システム講師の経験から



「いつもはもっと元気いっぱいだよ」と渡辺先生に言われ、笑顔がはじけた。取材後、「緊張した〜」とお母さんのもとへ駆け寄っていった志穂ちゃんでした。

家での予習・復習ポイントを書き込む宿題帳。「何を課題にするかは、本人に決めさせます」と、渡辺先生。



モーツァルトの「メヌエット」に関連して、ワークブックを広げながら当時の楽器の話に。子どもたちの興味を少しずつ、広げていく。

グループレッスンの内容を熟知していることも、渡辺先生の強みだ。「耳を鍛える音感教育やハーモニー感を培うのが、グループレッスンの良いところ。その利点を活かしながら、生徒さん自身が曲想や音をイメージし、それを表現する楽しさを感じてほしいです。NEWピアノスタディはCDやワークブックなどが工夫されてい

て、そうしたアプローチがよく考えられている教材です」

では、渡辺先生のレッスン流儀とは? 少しの沈黙のあと、「ゲラゲラッと笑いが生まれるようなレッスン」という答え。大声で笑えるのは、リラックスできてコミュニケーションがとれている証拠。「笑い声のトーンで、生徒さんの精神状態もわかりますから」